

## 成果目標

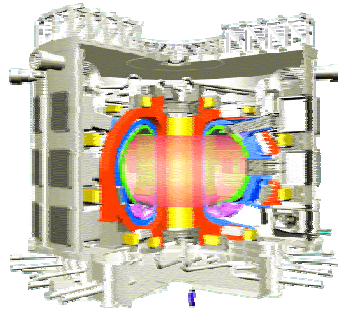
21世紀までに実用化の目処を得ることを目標に、今後30年間のITER計画及び幅広いアプローチの実施等を通じ、プラズマの長時間燃焼等の安定な核融合反応を実現し、核融合エネルギー利用への展望を拓く。

## 概要

供給安定性・環境適合性・安全性に優れた核融合エネルギー実現のため、下記プロジェクトを推進。

## ITER計画

日・欧・米・露・中・韓・印の7極の協力により、核融合実験炉ITERの建設・運転等を通じ、燃焼プラズマの実現や核融合工学技術の有効性を実証する。



## 幅広いアプローチ(BA)

日欧協力による、ITER計画を支援・補完し、原型炉開発に向けた技術基盤を構築するためのプロジェクト。青森県及び茨城県で施設設備を整備し、研究開発活動を推進。

## 進捗状況

## ITER計画

- ・ITER協定に署名(H18.11)し、ITER機構が協定発効までの暫定的な活動を開始。日本からも人員を派遣。
- ・ITER計画において我が国が分担する物納機器の調達準備活動を開始。

(ITER協定の国会承認、協定の受諾所をIAEAに寄託)(H19.5)

## 幅広いアプローチ

- ・幅広いアプローチ協定に署名(H19.2)
- ・日欧幅広いアプローチ準備委員会が発足。技術会合の開催等、プロジェクト実施に向けた調整・準備活動を開始。
- ・プロジェクト実施地の1つである青森県六ヶ所村におけるサイト予定地を選定。

(幅広いアプローチ協定の国会承認(H19.5)、同協定の発効及び協定の実施機関として(独)日本原子力研究開発機構を指定(H19.6))

## 今後の取組

- ITER計画のための我が国に分担された装置・機器の製作を開始するとともに、ITER機構に研究者等を派遣。
- 六ヶ所サイト整備やサテライト・トカマクの整備等、BA活動に係る施設整備や研究開発活動の推進。